

# 2022年3月期 第2四半期決算説明会資料

---

2021年11月4日



株式会社新日本科学 (東証1部 2395)  
SHIN NIPPON BIOMEDICAL LABORATORIES, LTD.

# 目次

**1. 上半期総括** P. 2

---

**2. 決算について** P. 5

---

**3. 事業トピックス**

---

**① CRO事業** P. 11

---

**② 臨床/TR/メディポリス事業** P. 15

---

**4. Q&A** P. 22

---

# 2022年3月期上半期 総括

---



代表取締役会長兼社長 CEO兼CHO  
永田 良一

# 本日お伝えしたいポイント

## 1. 2022年3月期 上半期 実績

- 医薬品業界でのR&D活動加速・効率化の流れを背景にCRO事業は大幅増収増益
- 顧客の利益最大化につながる“時間的価値創出”の取組みの成果が徐々に表出
- 好調な受注高：Q2累計期間としては過去最高を記録

## 2. 2022年3月期 通期見通しと今後の方向性

- 上半期実績と足元の状況をふまえ通期業績予想値を上方修正
- CRO事業の好環境トレンドは継続
- “ダントツのCRO”を目指し、中長期的視点での経営を行う

## 3. 企業価値向上に向けた取り組み：SDGs/ESG

- 情報開示体制の充実により、当社活動の「見える化」に着手
- SDGs委員会の設置とサステナビリティレポートの発行
- SDGs/ESGの取組みにおける業界のリーディングカンパニーとしてさらなる企業価値向上を目指す

# 企業価値向上に向けた取組み：SDGs/ESG

- 情報開示体制の充実により、当社活動の「見える化」に着手
- SDGs委員会の設置とサステナビリティレポートの発行
- SDGs/ESGの取組みにおいて、業界のリーディングカンパニーを目指す

＜新日本科学が取り組むサステナビリティの重要課題（マテリアリティ）＞

Environment (地球環境への配慮)	Social (社会・従業員に関する取組み)	Governance (ガバナンス)
1 CO <sub>2</sub> 排出量の削減	3 社会・地域コミュニティへの貢献	6 コーポレートガバナンス
2 生物多様性の保全	4 ダイバーシティの推進・働きやすい環境づくり	7 株主・投資家との対話
	5 健康経営	8 コンプライアンス・リスク管理



■メディポリス指宿の森林（鹿児島県指宿市）



■地熱発電所（鹿児島県指宿市）

＜外部からの評価＞



出典：当社『サステナビリティレポート2021』より一部抜粋 (<https://www2.tse.or.jp/disc/23950/140120211025416124.pdf>)

# 上半期決算について

---



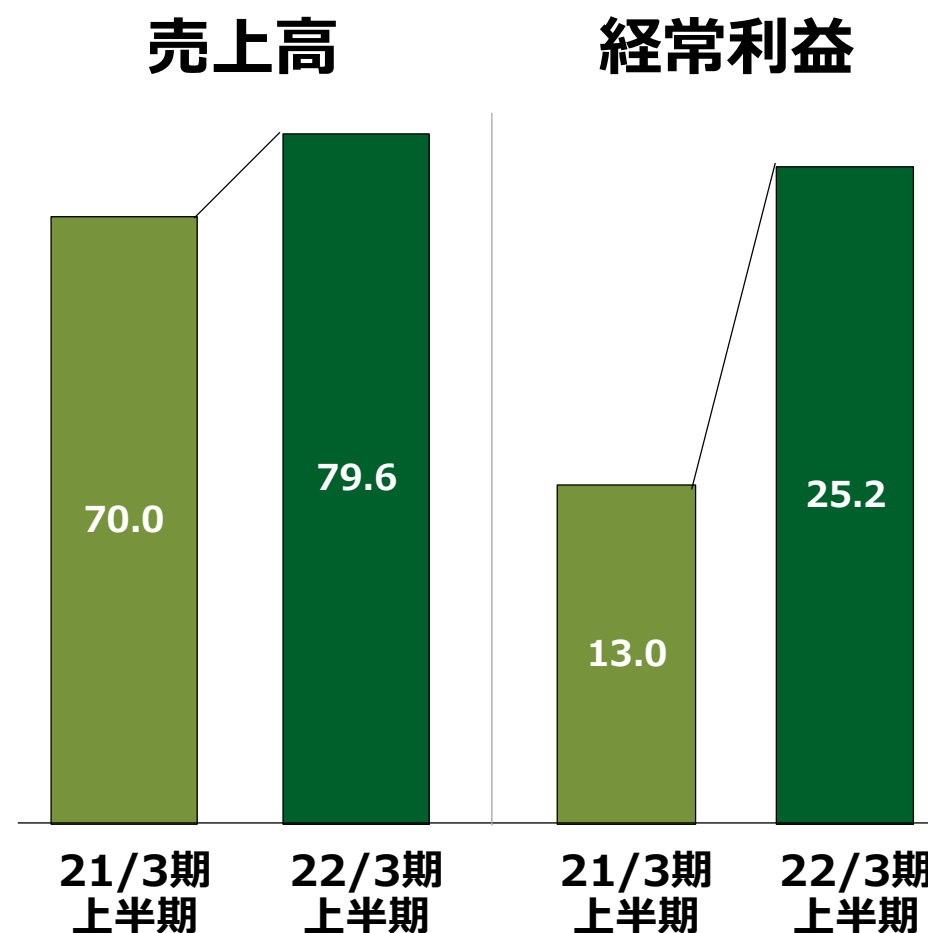
専務取締役 CFO  
二反田 真二

# 2022年3月期上半期 決算ハイライト

営業利益、経常利益、当期純利益はいずれも過去最高益

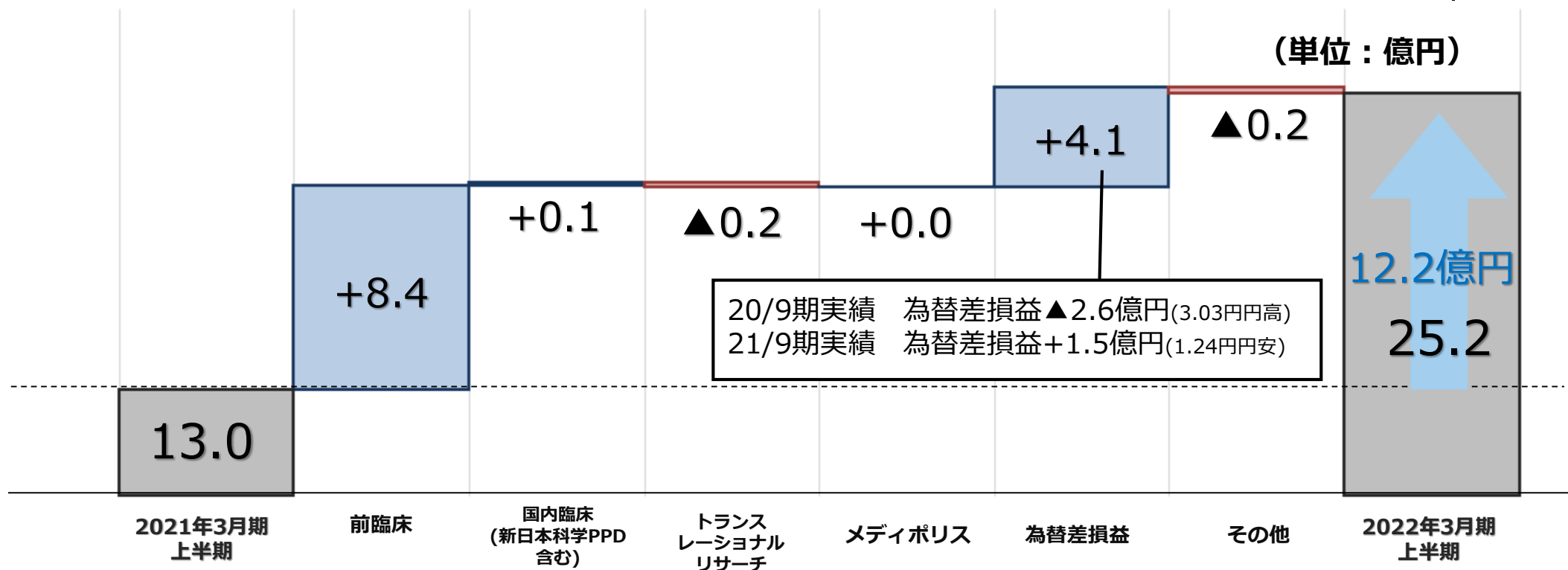
	2022年3月期	
	上半期実績	前年同期比
売上高	<b>79.6</b>	+9.5
営業利益	<b>19.6</b>	+8.0
経常利益	<b>25.2</b>	+12.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>35.0</b>	+23.6

(単位：億円)



# 2022年3月期上半期 連結経常利益 前年同期比較

	CRO事業		トランス レーショナル リサーチ事業	メディボリス 事業	為替差損益	その他	経常利益 合計
	前臨床事業	国内臨床事業 (新日本科学PPD含む)					
2022年3月期上半期	24.3	4.3	-3.3	-0.1	1.5	-1.5	25.2
2021年3月期上半期	15.9	4.2	-3.1	-0.1	-2.6	-1.3	13.0
前年同期比増減額	+8.4	+0.1	-0.2	+0.0	+4.1	-0.2	+12.2





# ■ 通期業績予想の修正について

## (2021/10/21開示)

---

# 2022年3月期通期 業績予想の修正 (2021/10/21開示)

営業利益、経常利益、当期純利益は  
上半期同様、いずれも**過去最高益を更新する見通し**

	2021年 3月期	2022年3月期			
		当初予想 (2021/5/10開示)	今回修正予想 (2021/10/21開示)	当初 予想比	前期比
売上高	151.1	159.8	<b>174.0</b>	<b>+14.1</b>	<b>+22.8</b>
営業利益	25.2	25.5	<b>38.0</b>	<b>+12.5</b>	<b>+12.7</b>
経常利益	36.4	32.0	<b>46.0</b>	<b>+14.0</b>	<b>+9.5</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	36.6	39.0	<b>49.0</b>	<b>+10.0</b>	<b>+12.3</b>

(単位：億円)

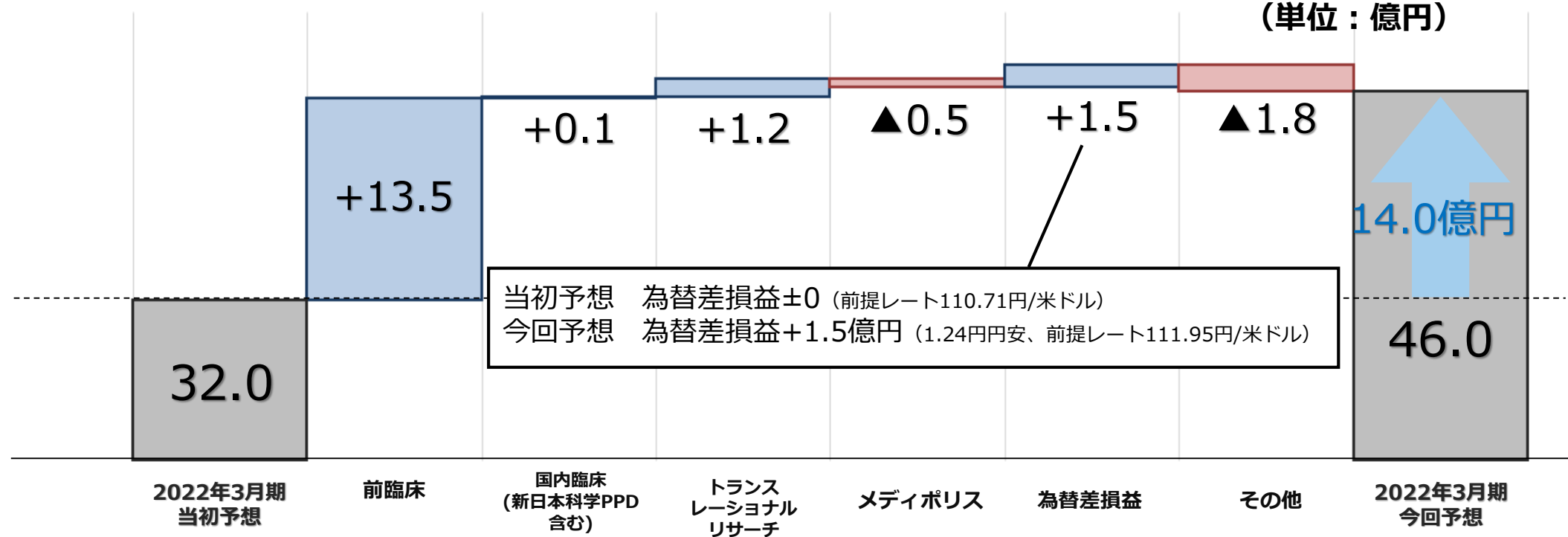
## 想定為替レート (111.95円/米ドル)

第2四半期連結累計期間において、子会社貸付金等に対する為替評価益1.5億円を計上しているが、通期見通しでは、第2四半期末の為替レート (111.95円/米ドル) を据え置いております。

# 2022年3月期通期 連結経常利益 当初予想比較

	連結経常利益						経常利益 合計
	CRO事業		トランス レーショナル リサーチ事業	メディポリス 事業	為替差損益	その他	
	前臨床事業	国内臨床事業 (新日本科学PPD含む)					
参考) 2021年3月期実績	34.3	10.0	-7.0	-0.5	2.3	-2.7	36.4
<b>2022年3月期今回予想</b>	<b>51.7</b>	<b>7.5</b>	<b>-8.2</b>	<b>0.0</b>	<b>1.5</b>	<b>-6.5</b>	<b>46.0</b>
2022年3月期当初予想	38.2	7.4	-9.4	0.5	0.0	-4.7	32.0
当初予想比増減額	+13.5	+0.1	+1.2	-0.5	+1.5	-1.8	+14.0

(単位：億円)



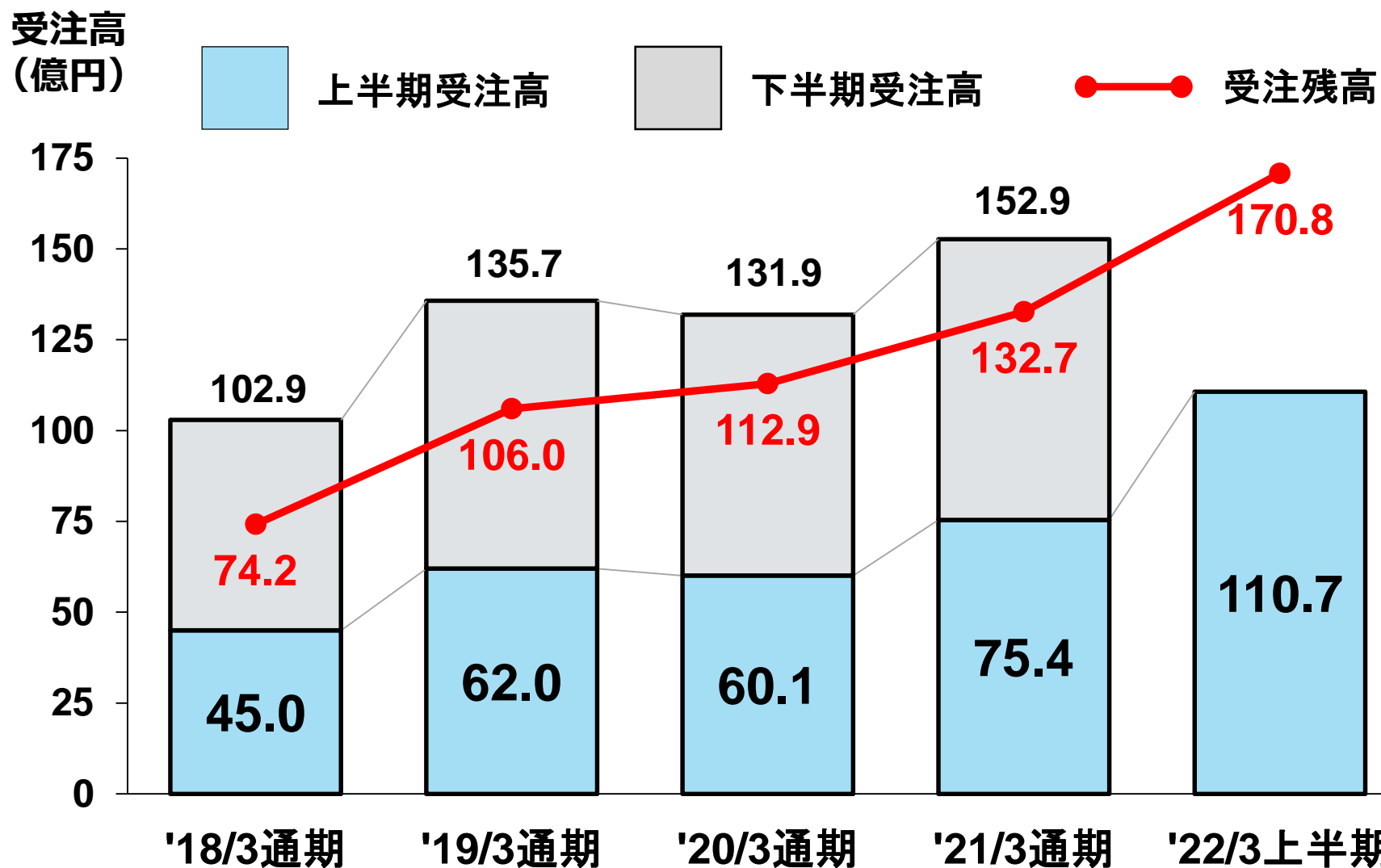
# 事業トピックス：CRO事業

---

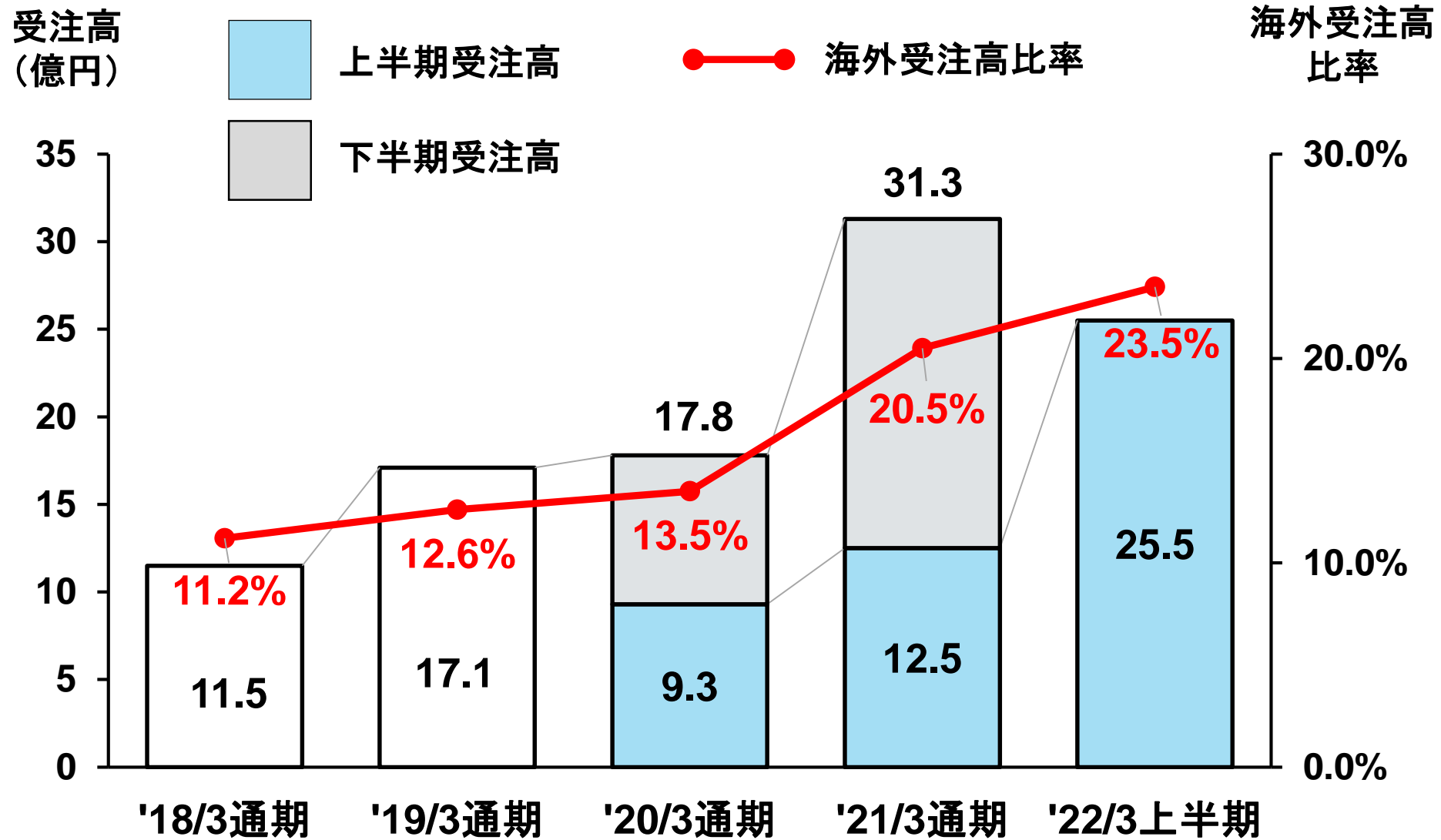


専務取締役 前臨床カンパニー  
President 兼 同Global BD担当  
角崎 英志

# CRO事業：2022年3月期上半期 前臨床 受注状況



# CRO事業：2022年3月期上半期 前臨床 海外からの受注状況



# CRO事業：霊長類試験の優位性

## 1990年代から構築していた医用研究実験動物（霊長類）のサプライチェーン

- ・ 自社グループ内での繁殖・育成・供給・試験投入をコントロールする体制
  - 当社が世界で初めて独自に構築したビジネスモデル
  - 霊長類を適時・安定的に供給し、顧客へ「時間的価値」を提供

## 新型コロナ発生から続く世界的な霊長類供給不足は未だ解決せず

- ・ 多様な創薬モダリティ開発が世界的に活発化
- ・ 主要供給国である中国からの輸出停止措置が継続
  - 当社は確立していたサプライチェーンにより、まったく影響を受けず

## さらなるサプライチェーンの強化

- ・ カンボジア施設での繁殖能力の増大
- ・ 日本国内での繁殖事業の拡大と体制強化
- ・ 中国でのJV事業の拡張・拡大

# 事業トピックス：臨床/TR/メディポリス事業

---



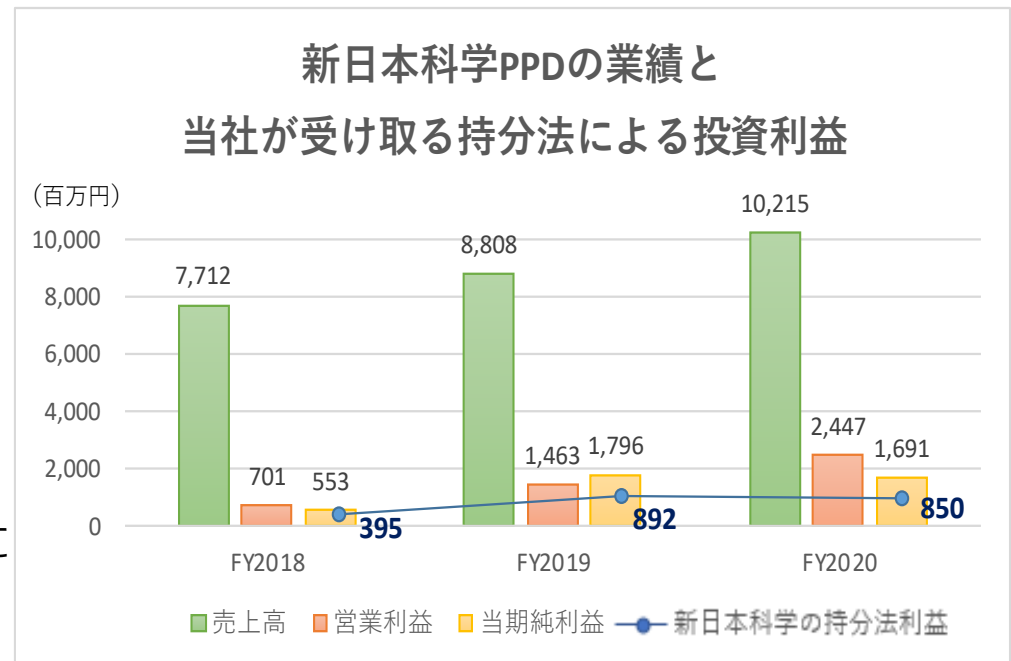
代表取締役副社長 COO

高梨 健



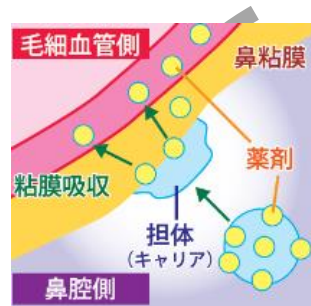
# I. CRO（臨床）事業について

- **パンデミックという世界的な課題を克服する中、ドラッグラグを克服しつつコスト効率を改善してゆくグローバル治験の重要性が近年増々高まっている。**
- 当社のパートナーであるPPDグループは、約50ヶ国で同時に治験を実施できる体制を整えており信頼性の高いグローバルCROとして、業績を順調に伸ばしている。  
 こうした点に着目した世界的な大手医療機器企業であるThermo Fisher Scientificがフルラインサービスという世界戦略を展開すべくPPDグループを買収することを発表した。  
 顧客ネットワークの相互補完により受注環境にシナジー効果が期待される。
- 当社が40%を保有する、新日本科学PPDはPPDグループ内唯一のJoint Venture として、日本的経営の要素を取り入れて高い社員定着率を実現して順調に事業規模を拡大している。  
 （設立後4年でランスタッド・ジャパンが選ぶ「働いてみたい注目成長企業2019」TOP5に選定される。）
- 受託試験は、悪性腫瘍、感染症、中枢神経系、循環器系、代謝・内分泌系など近年の開発ニーズに即した領域の試験を受託しており、受注状況は順調に推移している。



# II. TR事業について – SNBL経鼻投与技術と応用領域 / 2021 2Qの現状

## SNBL-TRの オリジナル経鼻投与基盤技術



### 経鼻担体技術

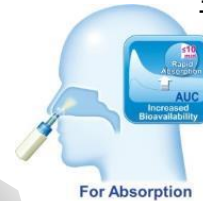
- ✓ 実薬毎に最適化した粘膜付着性の粉末製剤
- ✓ 複数の全身作用経鼻剤開発において非臨床/臨床の実績あり

### 経鼻デバイス技術

- ✓ 簡便操作
- ✓ 軽量コンパクト
- ✓ 高い噴射性能
- ✓ 低コスト
- ✓ 目的部位に応じたデバイスの最適化

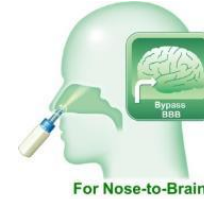


### 全身作用のための経鼻吸収剤



- 発達した毛細血管網を介した良好な薬物吸収
- 即効性を期待する薬物や初回通過代謝を大きく受ける薬物、嚥下が難しい状態での投与
- 延べ数百症例以上の臨床実績
- 偏頭痛治療薬をSatsumaへ導出済
- TR独自の神経変性疾患レスキュー薬の臨床開発を目的に株式会社SNLDを設立し、臨床P1試験入り準備中

### 脳移行のためのNose-to-Brain送達



- 嗅部から脳への薬物送達
- 血液脳関門 (BBB) を通過しない / しにくい薬物が候補となる
- 全身暴露による副作用の軽減
- 具体的な候補品目の探索

### 粘膜免疫のための経鼻ワクチン



- 粘膜抗体の産生
- 重症化予防に加え感染防御
- 交叉免疫反応
- コロナウイルス等新興感染症への合理的応用

## II. TR事業について – 重要投資先

**Satsuma**  
Pharmaceuticals, Inc.



経鼻偏頭痛薬の開発に  
特化したスペシャリティ  
ファーマ




- 当社の経鼻投与技術のライセンス(経鼻偏頭痛薬ジビト® [L] タミンへの適用に限定)を導出する形で2016年6月に米国に設立
- 米国機関投資家を中心に資金調達を行い、2019年9月にNasdaq上場
- 現在Phase 3 試験(薬効/安全性)を米国にて実施中(2022年末NDA申請予定)
- 上市後はライセンス(売上に対するロイヤルティ)収入が計上
- 当社株式保有比率 8.86%



**WAVE™**   
LIFE SCIENCES

立体制御合成プラットフォーム技術  
を用い遺伝性疾患薬を開発する核酸  
医薬ベンチャー

- 当社がハーバード大学と東京大学の教授等と2008/2009年に日本と米国に子会社を設立。2012年シンガポールに統合会社を設立した後スピンアウト
- 米国機関投資家を中心に資金調達を行い、2015年11月にNasdaq上場
- 2021年に入り、最新の立体制御合成技術を用いた3つのプログラム(ハンチントン病・ALS/FTD・デュシェンヌ型筋ジストロフィー)の臨床試験を開始
- 独自のゲノム編集(ADAR)技術を活かした開発プログラムも進行中
- 当社株式保有比率 10.77%

## II.TR事業について – (株) Gemseki 事業概要と特徴

### ライセンス事業

- 世界中の創薬シーズ・技術のライセンスアウト・ライセンスインの仲介を行い、より円滑で効率的な医薬品開発を支援

### ファンド事業

- 事業開発プラットフォームとしての活動に加え、投資・インキュベーション機能を持つことで、国内外のクライアントのさらなる成長と成功にコミットしたライフサイエンス事業の開発パートナーとして活動
- 新日本科学がグループとして保有する豊富な創薬経験のノウハウと、強固なグローバルネットワークを活用したサポートを提供

名称	Gemseki投資事業有限責任組合
ファンド総額	11億円
運用期間	10年
組合設立年月	2020年8月
投資対象・方針	創薬・ヘルスケア領域におけるシーズ、アーリー、ミドル、レイターまで幅広く対象としている

投資先企業へのサポート機能

# Ⅲ.メディポリス事業 - ホスピタリティ事業について (AMAFURU & Co.)

ウェルネスリゾート メディポリス指宿内の施設運営に関わっているのが、AMAFURU & Co. グループ全体との親和性として、人々のWellbeing、つまり全人的な健康の実現をメインコンセプトとして3つの宿泊業を展開している。



AMAFURU  
別荘 天降る丘

## ヒーリングリゾート 別邸 天降る丘

Wellness、自然、ラグジュアリーを三つの柱としてお客様へのおもてなしを提供

## リトリートリゾート 指宿ベイヒルズ

「自然の中のセカンドハウス」をコンセプトとして、自分を見つめなおすリトリートやワーケーションなどのサービスを提供



メディポリス指宿

## メディカルリゾート HOTEL フリージア

メディポリス国際陽子線治療センターで治療を行われる患者さんやそのご家族が穏やかな気持ちで安心して過ごすことができる環境を提供



指宿ベイヒルズ  
HOTEL & SPA



HOTELフリージア



一般社団法人メディポリス医学研究所  
メディポリス国際陽子線治療センター



# Ⅲ. メディポリス事業-サステナブル・ディベロップメント・カンパニー ～ SDGs達成に向けた貢献 ～

## ■ 発電事業



【メディポリス指宿地熱発電所】

### <地熱発電の特徴>

1. CO<sub>2</sub>排出がほぼゼロであり、環境適合性に優れている
2. 自然条件によらず安定的な発電が可能なベースロード電源の一つである
3. 日本は世界第3位の資源量を有する
4. 発電後の熱水利用などエネルギーの多段階利用が可能である

こうした特長から、政府が目指す2050年のカーボンニュートラル実現に向けて拡大が期待されている。

- ・当社では2015年2月から定格1,580kWのバイナリー型地熱発電所を稼働している。
- ・発電電力は全量をFIT法に基づいて売電し、安定した収益源となっている。
  - 平均営業利益（発電事業部として）：139百万円
  - 平均年間売電量（過去3年間平均）：9,662千kWh（当社年間使用電力量の約55%に相当）
  - 平均設備利用率（過去3年間平均）：69.8%（一般的に太陽光13%、風力20%、地熱56%と言われている※）
- ※電力広域的運営推進機関「2021年度供給計画のとりまとめ」より
- ・発電所から出てくる余剰蒸気をハウス栽培やプールの加温、施設の暖房等に活用することで、エネルギーの多段階利用によるCO<sub>2</sub>削減にも取り組んでいる。
- ・今後、ホテルの浴用に用いている温泉泉源を活用した地熱発電、地下からの蒸気・熱水の汲み上げを伴わない新たな形の地熱発電計画（現在は実証実験）も進めていく。
- ・敷地内でのCCS（Carbon dioxide Capture and Storage・CO<sub>2</sub>貯留）の可能性を検討するための共同研究を九州大学と実施予定。

## ■ 水産事業

- ・資源枯渇が顕在化している二ホンウナギの天然資源保護および地域貢献（鹿児島県は二ホンウナギの供給国内第1位）のために、シラスウナギ（二ホンウナギの稚魚）の人工種苗生産研究を進めている。

# Q&A

---

# 注意事項

1. 業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々なリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。
2. 本資料は国内外を問わず、投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。本資料の利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。
3. この資料に含まれている医薬品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝 広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。
4. 当資料は「2022年3月期 第2四半期 決算短信」に準拠し作成しています。また、差額、比率については億円単位未満切捨てで記載しております。

## <IRに関するお問い合わせ>



株式会社新日本科学  
IR広報統括部

電話： 03-5565-6216  
E-mail： ir@snbl.co.jp  
ウェブサイト： <https://www.snbl.co.jp>



わたしも幸せ、あなたも幸せ、みんな幸せ



株式会社新日本科学 (東証 1 部 2395)  
SHIN NIPPON BIOMEDICAL LABORATORIES, LTD.